

2012年工大祭 くらりか“レモン電池”教室 実施報告書

2012. 10. 19.

“くらりか” 高木 ヤスオ

本年度も桜花会からの要請を受けて、工大祭で“レモン電池を作ろう”理科教室を“くらりか”と共催で次に記載した要領で実施しました。

*開催月日・時間； 10月6日（土曜日）12時半頃から17時。（終了間議に来場があり延長）

10月7日（日曜日）10時から16時半頃。（教材が不足した所で終了）

*教室実施方法・内容； 説明用の紙芝居を7セット用意して、来場者毎に説明内容を合わせる方式。
（メールに添付した紙芝居・保護者向け説明書を参照してください）

*教室講師；10月6日 “くらりか” 高木、斎藤、栗原、山岸、安永、弘中（敬称略）

学生 西村遥平、高須大輝

10月7日 “くらりか” 高木、斎藤、雨谷、桜井、高橋、

学生 am：松岡英紀、塚田洋行 pm：坂尻文、福田優佳

*教室場所；西4号館2階化学実験室 来場者が集中する傾向があり、場所を広げて対応した。
教室内容の説明ポスターは、岡本研で高木原稿を元に作成して頂き、掲示した。

今回教室の実施概要報告・感想を次に記載いたします。

1. 来場者は、6日に約100名、7日は240名（教材数量から推定した。準備は240名分）と昨年度より大幅に増加した。来場者は、高校生、保護者同伴生徒、卒業生、近隣住民等に大別される。今回は高校生が多いように感じられた。
2. 学生諸氏には、事前に紙芝居を用いた教室プログラムを教授して、講師の役割を担当して頂いた。極めて積極的に取組んで頂き、特に高校生には適切な説明を実施されていた。高校生には親しみ易く、応答などが活発に行われていた様子であった。“くらりか”メンバーでは出来ない役割を果たして頂いた。来年以降もこの方法を継続してゆきたく考えます。学生諸氏には感謝を致します。
3. 剣持方式（針金とアルミテープによる接続）により作成を行った。アルミテープの剥がす作業に戸惑う人も見かけられたが概ね順調にレモン電池の作成が出来た。
1ボルト前後の電圧が計測され、中には1.15ボルトと極めて高い電圧を記録した。（事由は？）
4. 来場者の中で、次の様な方法で結線していた人が数人見かけられた。
リード線金属部分をアルミテープの対角線上に貼付け、アルミテープを軽く折り曲げ、その後に折り曲げた所に針金を差込む形で置いて、強く押して貼付けて旗状にする。その後に旗の部分を針金に巻き付けていた。追試してみたが、非常にうまく、簡単に接続できるようである。

5. 教室の準備・進行状況を川添氏に多くの写真を撮影して頂きました。コメントも記載されています。参照してください。
6. “くらりか” 著『ふしぎ不思議の理科教室』を展示して、希望者には数冊を販売いたしました。工大祭実行委員会の諒解が事前にとってなく、積極的に販売ということは出来ませんでした。
7. 上記の本には21種類の教室プログラムが掲載されています。桜花会に進呈致しました。来年度も当該事業を桜花会が計画される際には、この本から応用化学にふさわしい内容を選別して頂くことが出来ると思います。
8. レモン電池は好評であります。来場者は年々変わってゆきますので、来年度も同一テーマも良いのかと考えています。

川添氏考案の水道水電池を加えること、又野菜電池・人間電池の時間を増やす等の説明の工夫・改善にも努める必要があると思います。

以上